

## スタインマン 英国出身の元世俗主義者

:

明:この人物のイスラーム改宗の理由は、ある著名な人物のした言です。

目:[事新改宗者ムスリムの逸女性](#)

より:スタインマン

日 20 Jan 2014

集日 20 Jan 2014

大きな共同体が信仰するもののなかでも、これほど理解しやすく、励みとなる宗教は他にありません。心の平穏と人生への足感への道として、これよりも良いものも、死である将来への束としてこれより大なものもありません。

人は、全体の一部に過ぎません。人は大かつ完全なる造の中の一片であること以外は主たることは出来ません。それゆえ、人は全体、そして他の生命にする役割を果たすことのみによって生きる目的を成すことが出来るのです。人生を目的あるものとするのは、一片と全体との和であり、それは完全性に近づけ、人に足感と幸福感をもたらすのです。

造主と被造物の において、宗教はどのような位置を占めるのでしょうか？

以下は、著名人による宗教に しての 解です。

「人の持つ宗教は、その人物にする最も著な情である。それはその人物が信じ、践するものであり…それはその人物の心に宿り、この世界と自らの、任、命を信立させるもの…それが宗教なのである。」（トマス・カライル「Heroes and Hero-sorship [英雄と英雄崇]」）





